

## 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

### 事業名 海外連携等推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 岐阜県立森林文化アカデミー 教務課 電話番号：0575-35-2525(内207)

E-mail：c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,957 千円 (前年度予算額： 10,957 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	10,957	2,137	0	0	0	0	0	0	8,820
要求額	10,957	1,983	0	0	0	0	0	0	8,974
決定額	10,957	1,983	0	0	0	0	0	0	8,974

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

県土の82%を占める森林が健全であることは、県民の生活環境と山村地域住民の生活を維持するうえで不可欠である。森林の健全性を維持増進するためには森林を管理する技術者（森林技術者）が必要だが、過去5,000人を超えていた技術者は近年1,000人前後を推移し、増えつつある伐採適期の森林（毎年度1.8万m<sup>3</sup>の蓄積増）と本格稼働が始まった県内大型製材工場やバイオマス発電所等の木材需要（H25年度36.8万m<sup>3</sup>→H28年度50万m<sup>3</sup>）に応えるため、優秀な技術者の育成確保が急務である。こうした中、岐阜県における森林技術者の中核的養成機関とされている岐阜県立森林文化アカデミーが、その教育水準の一層の向上を図り、優秀な学生の確保と優秀な卒業生を業界へ供給することで、この問題に対処することが必要である。そのため、ドイツにおける林業技術者の養成で優れた取り組みを行っているロッテンブルク林業大学と平成26年11月10日に連携覚書を締結した。その覚書に基づき教育ノウハウの取得や、学生相互交流を覚書締結から5か年におたり行っていたが、令和元年に覚書の延長を行い、引き続き両校の研究や教育の連携を深化させる。

(2) 事業内容

- ・実践的技術者養成のための教育ノウハウの習得とカリキュラムの開発
- ・広い見識を有する技術者を育成するための海外連携教育の学生への提供

(3) 県負担・補助率の考え方

森林文化アカデミー運営に関わることのため、県において全額負担することが妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	200	ロッテンブルク林業大学教員通訳
旅費	4,236	ロッテンブルク林業大学への教員旅費等
需用費	147	消耗品費：90,000円、対外交流費：40,000円、会議費：17,000円
役務費	50	通信運搬費等
委託料	6,126	通訳委託等
使用料及び賃借料	198	有料道路代、海外用Wi-Fiルーター
合計	10,957	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

ロッテンブルク林業大学との連携覚書期間は、平成31年度までの5年間であったが、令和元年10月に協定を5年間延長した。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

森と木のエンジニア科卒業生の県内就職率を80%以上にする。

・県内の森林技術者は減少しており、優秀な森林技術者の育成確保が急務である。森林文化アカデミーの教育目的の核は、現場で即戦力として働く森林技術者の育成を目的とする森と木のエンジニア科である。本事業の実施により本学の教育水準の向上を図り、優秀な森林技術者を育成し、卒業生を県内に供給するための指標として上記を設定する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R元)	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
森と木のエンジニア科県内就職率	78	74	86	80	80	

○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>新型コロナウイルス感染症流行により、ドイツへの渡航が困難となり直接の交流は出来なかったが、インターネットを利用して、情報交換や連絡調整等を行い、交流を継続した。</p> <p>ロッテンブルク林業大学の教員との情報交換により、引き続き連携を図っていくことを確認した。</p>
令和3年度	<p>新型コロナウイルス感染症流行により、ドイツへの渡航が困難となり直接の交流は出来なかったが、インターネットを利用して、ゼミを実施したり、情報交換や連絡調整等を行い、交流を継続した。</p> <p>ロッテンブルク林業大学の教員との情報交換により、引き続き連携を図っていくことを確認した。</p> <p>指標① 目標：80 実績：86 達成率：108 %</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・ <b>事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b>            3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>森林文化アカデミーは県の森林技術者育成の中核機関。安全で効率的な森林管理技術を有する若手森林技術者の育成と業界への供給は、森林技術者が高齢化する中で一層重要性を増し、その教育に海外の先進技術をいち早く取り入れることは、岐阜県の森林・林業を健全で活力あるものにするためにも不可欠と考える。</p>
<p>・ <b>事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b>            3：期待以上の成果あり            2：期待どおりの成果あり            1：期待どおりの成果が得られていない            0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>事業開始前(R元)は78%と終期目標の80%に対しわずかに目標を達成できず、令和2年度実績も目標を達成できなかったが、令和3年度は目標を達成できた。ロッテンブルク林業大学との連携により蓄積される教育ノウハウが実際の教育に反映され、優秀な学生を育成し、それが卒業生の就職先での評価、そして本学への企業評価が高まることで県内就職率が目標に届くので、それに達するには時間がかかると思われる。</p>
<p>・ <b>事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b>            2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>前年度の成果を評価し翌年度実施内容を検討、最適な方法を模索しながら実施している。そのため効率化の視点は常に意識に上っており、効率化は図られている。</p>

### (今後の課題)

<p>・ <b>事業が直面する課題や改善が必要な事項</b>            ロッテンブルク林業大学との連携は双方利益の実現であり、また相互に負担できる経費その他諸事情により変化する互いの連携要望事項について調整をすすめている。その内容によっては新たな取り組みを行わなければならない。</p>
---

### (次年度の方向性)

<p>・ <b>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b>            引き続き、この交流が両校にとってメリットが得られるよう、ロッテンブルク林業大学やその他関係機関と事前の調整を十分に行い、事業に取り組んでいく。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	